

アブラハムが息子イサクを差し出す

キー・ヴァースアブラハムはその地の名を『主が備え給う』と名づけた。

創世記22:14

厳選された聖典

創世記22:1-18

私たちの重要な聖句は、聖書に記されている最も力強く、よく議論される出来事の一つから取られている。アブラハムとイサクが、イサクを燔祭として捧げよという神の命令に耐え、またイサクが父に殺されそうになったという体験に耐え、心に傷を負ったことは想像に難くない。聖書の歴史におけるこの重大な瞬間を探るために、多くの解説書が書かれてきた。しかし、この苦い物語は、アブラハムの約束の確認という貴重な実りをもたらした。「主はこう言われる：あなたがたはわたしに従い、あなたがたのひとり子さえも遠ざけなかったから、わたしは必ずあなたがたを祝福すると、わたし自身の名によって

誓う。わたしは、あなたの子孫（
）を、空の星や海辺の砂のように、数を超えてふや
す。あなたの子孫は敵の町を征服する。そして、あ
なたの子孫によって、地のすべての国々は祝福され
る。創世記22:16-18

アブラハムの神への信頼は最高だった。おそらく彼
は、神がこの信仰の実証を貫徹させることはないだ
ろうと疑っていたのだろう。このことは、同行した
者たちへのメッセージに暗示されている。神がイサ
クを捧げるようにと導かれた場所を見て、アブラハ
ムは召使たちに言った。「少年と私は少し遠くまで
行く。少年と私は少し遠くまで旅をして、そこで礼
拝をし、それからすぐに戻ってきます。」（創世記2
2:5）。(創世記22:5)。彼は
"私たち"（複数形）と言った。

イサクは父アブラハムに語りかけた。すると彼は言
った、『息子よ、ここにいます』。そして言った、
『見よ、火と薪はあるが、燔祭のための子羊はどこ
にいるのか』。アブラハムは言った、『わが子よ、
神はご自分のために燔祭のための小羊を備えてくだ
さる』。それで、二人は一緒に行った」。創世記22
:7,8

アブラハムがイサクを縛り、ナイフで殺そうとしたとき、主の使いがその手を止めた。そのすぐそばの茂みの中で茨に引っかかっていたのは、神の摂理によって用意された雄羊だった。イスラエルの幕屋で雄羊を捧げることは、以前に捧げられた子羊や雄牛を主が受け入れられたことを意味する。このことは、神がイサクの犠牲を完了したとみなし、雄羊がそれを受け入れたことを表していることを示唆している。

アブラハムは言った。"わが子よ、神はご自分のために子羊を備えてくださる"。主は備えてくださるし、実際、すでに備えてくださっている。「神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛されたのである。神が御子を世に遣わされたのは、世を断罪するためではなく、御子によって世を救うためなのです ヨハネ3:16,17

実際、イエスは世の罪を取り除く神の小羊であり、人類家族の回復のための命の門を開いてくださる。(ヨハネ1:29) 使徒パウロがガラテヤの信徒への手紙の中で述べているように、これは福音のメッセージの典型である。聖書は、神が信仰によって異邦人を義とされることを予見して、あらかじめアブラハムに福音を宣べ伝え、「あなたがたのうちに、すべ

ての国民は祝福されるであろう」と言われた。ガラ
テヤ3:8